

韓国

廃バッテリー輸入急減

2月3万トン 対米国6割ダウン

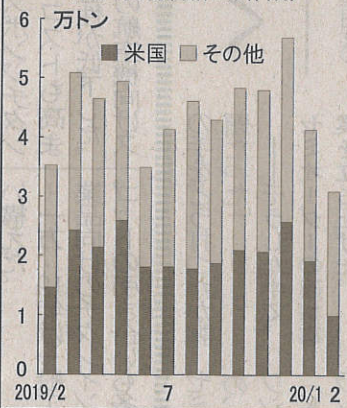
韓国の廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の輸入が急減した。韓国関税庁がこのほど発表した貿易統計によると、2月の総輸入量は前年同月比12・3%減の3万961ト。単月では4年3カ月ぶりの低水準だった。

た。季節的な要因も考えられるが、最大調達先である米国からの輸入が直近ピークから約6割ダウンした。韓国は鉛リサイクル原料の廃バッテリーの世界最大輸入国。19年には日本からの輸入が全面ストップしたもの

の、米国からの代替調達を拡大させ、年間の総輸入量は54万3344ト（月平均4万5224ト）で過去最多を更新していた。2月輸入は前月比では2カ月連続で急落し、2015年11月の2万9913ト以来の

少なさ。主な輸入相手の内訳は、米国1万18ト、アラブ首長国連邦(UAE)5248ト、イエメン2195ト、ニュージーランド1898ト、シンガポール1830ト、リビア1514ト、トーゴ1452ト、カナダ115

韓国の廃バッテリー輸入
(韓国貿易統計より作成)



3ト。対米輸入は過去2番目に多かった12月2万5808トと比べると61%、1月の1万9222トからは48%減少した。例年2月は稼働日数が少ないことや、米国側の積み出し時期

がクリスマス休暇や年末始に当たるとともに、今年には大幅に減少し、18年8月以来の1万ト割れに迫った。19年の月平均2万487トのおよそ半分だった。

環境問題に起因した対日輸入停止により、韓国二次精錬業界は北米以外の新規輸入先の開拓を図ってきた。しかし、中東・アフリカ諸国ではインドとの集荷競争によって調達量は伸び悩んでおり、ここに至って原料確保の米国依存の高さが浮かび上がっている。今後、廃バッテリーを原料ソースとする鉛地金やバッテリー製品の輸出を左右する可能性もあり、今後の輸入動向が注視されそうだ。

なお、2月の精製鉛輸出は前年同月比38%減の1万8078ト。米国向けは1528トだったが、インド向けが7867トと過去最多に増えた。補修用を主用途とする自動車用鉛バッテリー製品の輸出は7・8%増の6万920トで高水準だった。